

英語科目についての全般的説明

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に4技能を習得することを目指しており、その目標の例の一つは英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイスメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A IIを補完すべく、読解力を中心に4技能をまんべんなく学ぶ。目標の例の一つは英語で発行された新聞などの印刷物を、自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A IIや B I / B IIにおける学習内容を深め、レベルを高めることを目標としている。具体的な役割は2年次以降に開講されている（一部1年次より）上級英語などへ繋がる科目であり、大学生として必要最低限の英語運用能力を身につけることを目標としている。各学科で開講されている英語科目や英語を使用した科目にも繋がる科目である。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話を中心として4技能を学ぶ。作文なども特徴の一つ。）

総合英語 B（読解を中心として4技能を学ぶ。聴解力、作文能力、あるいは発信能力を並行して行うこともある。）

総合英語 C（総合英語 A、Bを発展させた内容。具体的内容は担当教員によりさまざまなものを用意している。）

3. 履修上の注意

- 1）3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 2）開講年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教員による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3）編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 4）総合英語 A I / A IIについては、入学当初に行われるプレイスメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語 A コーディネーターへ相談すること。
- 6）必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B、C と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。英語が苦手な学生から、総合英語でできない内容を求める学生まで幅広く対応している。多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分にあった授業を選択する。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1）同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2）演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について

（選択科目：2年次以上、条件付で1年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1）1年次で履修する（履修可能科目は、上級英語 A I、A II、上級英語 B I、B IIのみ）学生のみ T O E I C 500 点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。2年次より履修する学生は、総合英語 A と B の単位を取得済みであることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
- 2）演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
- 3）同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
- 4）鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
- 5）T O E I C スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

（註）大学院においても英語（ロング、ラクストン）、言語学特論（村田）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

担当学年：1 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth Steele, Andrew Watt, Adam Stott, Alex Bodnar,

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English

(b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions

(c) To practice the writing of English paragraphs and compositions

(d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2） Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a Placement Test at the beginning of the year.

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Language to go - Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー等

Mondays, 12.00-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

授業で実践した勉強法を身に付け、今後の自主学習に活用する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Cavegirls Were First Blondes to Have Fun
3. 発表
4. Unit 3 Fast-food 'Healthy Options' Still Full of Fat and Salt
5. 発表
6. Unit 5 Caring Enough to Stamp 'I Love You'
7. 発表
8. Unit 7 Growing Up Potter
9. 発表
10. Unit 9 China Syndrome
11. 発表
12. Unit 13 Service with a Motto: A Japanese Chain Arrives
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書：Global View（朝日出版社）

What Are Your Travel Plans?（松柏社）

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：建設社会工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科
総合システム工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、時事英語を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。高校までに学習した英語を、社会での実際の使用に耐えるよう、さらにステップアップさせるべく、様々な I T を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい。

2. キーワード

国際英語、I T、英語発音、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめⅠ、I T 利用法
2. 国際英語のすすめⅡ、I T 利用法
3. 発音記号；母音の発音法Ⅰ、時事英語
4. 発音記号；母音の発音法Ⅱ、時事英語
5. 発音記号；子音の発音法（破裂音）、時事英語
6. 発音記号；子音の発音法（摩擦音）、時事英語
7. 発音記号；子音の発音法（破擦音）、時事英語
8. 発音記号；子音の発音法（接近音）、時事英語
9. 発音記号；子音の発音法（鼻音）、時事英語
10. 発音記号；子音の発音法（半母音）、時事英語
11. 連結発音Ⅰ、時事英語
12. 連結発音Ⅱ、時事英語
13. 連結発音まとめ、時事英語
14. 復習質問他
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（CD 2 枚付き）（三修社）
2. News Digest Beginners(The japan Times)
- 3.（参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30－4：00

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題についての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad' s Lack of Parenting
12. Dad' s Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験－60%
 - (2) 授業での小テスト－20%
 - (3) 授業での発表やレポート－20%
- 総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues(Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定するような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

環境、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界的に膾炙している文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニングについては、英語検定試験にも役立つ、基礎的な練習問題に取り組む。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (1)
3. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (2)
4. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (3)
5. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (4)
6. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (5)
7. Review Test
8. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (1)
9. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (2)
10. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (1)
11. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (2)
12. The Selfish Gene (1)
13. The Selfish Gene (2)
14. The Selfish Gene (3)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験 60%、小テスト、授業中の作業など 40%。積極的な発表などの参加点を考慮する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：SCOPE (研究社)

Listening Star (Basic) Pearson Longman

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも 1 つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

手段としての英語を発見し、自分の必要に応じて情報を獲得・楽しめるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第 1 回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第 2 回 歌詞の英語 I
- 第 3 回 歌詞の英語 II
- 第 4 回 歌詞の英語 III
- 第 5 回 新聞・雑誌の英語 I
- 第 6 回 新聞・雑誌の英語 II
- 第 7 回 新聞・雑誌の英語 III
- 第 8 回 新聞・雑誌の英語 IV
- 第 9 回 エッセイの英語 I
- 第 10 回 エッセイの英語 II
- 第 11 回 エッセイ・ライティング
- 第 12 回 スピーチ・プレゼンテーション I
- 第 13 回 スピーチ・プレゼンテーション II
- 第 14 回 スピーチ・プレゼンテーション III
- 第 15 回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 小レポート (40%) 期末レポート (30%)
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室： 総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語でスピーチする際には、情報を整理する論理的思考力と、整理された情報を効果的に伝達する表現力が不可欠である。この授業では、スピーチの構成や、効果的な伝達方法を段階的に学び、最後にスピーチを実践することで、論理的思考力と表現力を磨く。

2. キーワード

スピーチ、論理的思考力、表現力

3. 到達目標

スピーチの構造および効果的な伝達方法を習得し、人前でのスピーチに対する苦手意識を緩和する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 身体の構成と内容の構成
3. Unit 6 プレゼンテーションの構成①the introduction
4. Unit 7 プレゼンテーションの構成②the body/the discussion
5. Unit 8 プレゼンテーションの構成③the conclusion
6. Unit 11 情報伝達型のプレゼンテーションの特徴
7. Unit 12 説得型プレゼンテーションの特徴
8. Unit 2 恐怖心を克服する
9. Unit 5 声の効果と発音の明瞭さ
10. Unit 3 聴くことの重要性
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Speaking in Public (成美堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、時事英語を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。前年度までに学習した英語を、社会での実際の使用に耐えるよう、さらにステップアップさせるべく、様々な IT を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい。

2. キーワード

国際英語、IT、英語発音、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の増強。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I、IT 利用法
2. 国際英語のすすめ II、IT 利用法
3. 発音記号；母音の発音法 I、時事英語
4. 発音記号；母音の発音法 II、時事英語
5. 発音記号；子音の発音法（破裂音）、時事英語
6. 発音記号；子音の発音法（摩擦音）、時事英語
7. 発音記号；子音の発音法（破擦音）、時事英語
8. 発音記号；子音の発音法（接近音）、時事英語
9. 発音記号；子音の発音法（鼻音）、時事英語
10. 発音記号；子音の発音法（半母音）、時事英語
11. 連結発音 I、時事英語
12. 連結発音 II、時事英語
13. 連結発音まとめ、時事英語
14. 復習質問他
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 50%、期末試験を 50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（CD 2 枚付き）（三修社）
2. News Digest (The Japan Times)
3. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30－4：00。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

科学分野の知的好奇心を刺激する英文を読むことにより英語の総合能力を向上させる。将来科学分野の英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Living in Space
3. Living in Space
4. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
5. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
6. Basic Biochemistry
7. Basic Biochemistry
8. How does an Airplane fly?
9. How does an Airplane fly?
10. Robots for Space
11. Robots for Space
12. Physics of Roller Coasters
13. Physics of Roller Coasters
14. Apollo Rocket Part I
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

現代社会の様々な問題についての記事や資料を読み、それについて考える授業である。インプット作業において読解能力を伸ばし、時事問題のバックボーンについて学習する。得られた知識や表現を使って、アウトプットの練習も行いたい。

2. キーワード

時事問題

3. 到達目標

現代社会の抱える問題について、基本的な事項を英語で理解することができるようになること。また、自主的に問題について考察することができるようになること。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Human Rights
3. Peace
4. War
5. Earth
6. Environment
7. Water
8. Revise Test 1
9. Famine
10. HIV/AIDS
11. Poverty
12. Gender
13. Globalization
14. Refugees
15. Revise Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業内での作業を総合して行う。総合評価で60点を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：江原裕美、岡津守男 「地球と人類の諸問題を考える」 (南雲堂)

参考書：新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

4. 授業計画

第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング

第2回 Conclusion/Reasons (1)

第3回 Conclusion/Reasons (2)

第4回 Conclusion/Reasons (3)

第5回 Conclusion/Reasons (4)

第6回 Explanation (1)

第7回 Explanation (2)

第8回 Explanation (3)

第9回 Explanation (4)

第10回 Process (1)

第11回 Process (2)

第12回 Process (3)

第13回 Process (4)

第14回 課題作成

第15回 課題発表

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること

自主学習として、図書館の *Japan Times* や、インターネットで週刊 *ST*、*Daily Yomiuri* などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 江口 雅子

1. 概要

国際化した現代社会において、いずれ社会に巣立つ学生が異文化を理解することは重要である。本授業では、日本人の観点、アメリカ人の観点両方からアメリカの文化を理解する。英語の読解力、聴解力を中心として4技能を学び、語彙と文法の力も付けることを意図し、大学生に必要な英語運用能力を習得させる。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、国際性

3. 到達目標

本授業では、教科書であるテキストを十分に読みこなすことを目指し、大学生として必要な英語読解能力を習得させることを到達目標とする。またリスニング能力については単語力、文法力、予想力、文化的背景知識を必要とする総合力であるから、毎回生きた素材の英語を聞き取ることを到達目標とする。主に英語読解能力、リスニング能力による英語力に焦点を当てることにより、ライティング能力、スピーキング能力をも引き出し、全般的運用能力の向上を目指す。

4. 授業計画

1. Introduction

2. Seeking Good Health—The American love of vitamins

3. Americans who prefer weak stuff

4. Good American Ideas—Buying in bulk

5. Getting a driver's license easily

6. Selling textbooks after exams

7. Admirable American Manners—The rules of introductions

8. Holding the door for other people

9. Customer Service—The troublesome custom of tipping

10. How Can They Do That?—Noisy movie theaters

11. Sharing a room with a stranger

12. Scary public restrooms

13. This is an American Family—Independent - minded children

14. Husbands controlling the family budget

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業出席・発表点50%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

・全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。

・講義内容の十分な理解を得るために、予習、復習を必須とする。

・「今の」英語に触れるため、NHKテレビあるいはラジオの英語語学番組を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Eye on America — Japanese and American Views of U.S. Culture (三修社)

参考書：リーダーズ英和辞典、リーダーズ・プラス (研究社)

Longman Dictionary of English Language and Culture (文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

Seiko, Sharp, Casio の電子辞書 (英語専用モデル) を勧める。

8. オフィスアワー等

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、これからの英語学習につながる、難易度の高い英語の読破を目指す。しかし、2 年次以降に必要な英語のスキルとして、科学的な英語表現のマスターも学生にとっては有用であるといえる。したがって、本授業では主に科学的な内容の含まれる文章を取り上げ、それと同時に難易度の高い英語表現も学習する。

2. キーワード

生物、環境、科学

3. 到達目標

本授業は、科学雑誌“Science News”誌の記事を扱った教科書を用いて読解の能力を磨き、更に難解な英語表現を読解することで、様々な英語の文章に対応できるスキルを身に付けることを目標とする。更に、比較的長い文章を聞くことで、リスニング能力の育成にも力を入れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Talk to the Hand — Language might have evolved from gestures
3. No Place Like Om — Meditation training puts oomph into attention
4. Unstoppable Bot — Armed with self-scrutiny, a mangled robot moves on
5. Mafia Cowbirds — Do they muscle birds that don't play ball?
6. Nice Shot - Hepatitis E vaccine passes critical test
7. Cleaning Treasures — Safer solvents for restoring frescoes
8. Pothole Pals — Ants pave roads for fellow raiders
9. Violent Justice — Adult system fails young offenders
10. Why So Dry? — Ocean temperatures alone don't explain droughts
11. Formula for Panic — Crowd-motion findings may prevent stampedes
12. Low Life — Cold, polar ocean looks surprisingly rich
13. In the Zone — Extrasolar planet with the potential for life
14. Ancient Extract — T. rex fossil yields recognizable protein
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、提出課題30%（予定）。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。この評価基準は現在の予定です。正確な評価基準は第1回目の授業の際に告知します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、十分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Speaks（最新科学の贈り物）金星堂

※関連した記事があればその都度配布します。

参考書：※予習には辞書が必要となってきます。

- ・電子辞書（できれば英語専用モデルのもの）があると便利でしょう。
- ・英英辞書（Oxford Advanced Learner's Dictionary 等）も使えると英語学習に役立ちます。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー等はありませんが、質問がある場合には、e-mail等で受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 梅田 真理

1. 概要

本授業では、社会問題や海外のトピックについてのリーディングを読み、そしてそれぞれのトピックに関して英語で考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通して意見を述べるができるように演習を行います。

2. キーワード

社会問題、異文化理解

3. 到達目標

英語で時事問題を読むことに慣れ、学生自らインターネットや新聞などから英語で書かれた情報を入手し、意見を伝えることができるようになることを目標としています。本授業では、その方法を学んでもらいたいと思っています。

4. 授業計画

1. Chapter 1 : The key to success in the information age
2. Chapter 2 : Personalities according to blood types
3. Chapter 3 : One Titanic love affair
4. Chapter 5 : Make the connection
5. Chapter 6 : Problems of a Thoughtless vegetarian
6. Chapter 7 : An escape from Japan (1)
7. Chapter 8 : An escape from Japan (2)
8. Chapter 9 : An international marriage fraud incident
9. Chapter 10 : From campus with love — the E-mail connection
10. Chapter 11 : Plastic surgery is not the answer
11. Chapter 13 : The joy of service
12. Chapter 14 : A nation being washed away
13. Chapter 15 : Chocolate Industry charms every Brit's
14. Chapter 17 : Cinderella in China
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（中間・期末）70%、小テスト20%、発表10%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・リーディング中心ですが、発表やディスカッションも多く取り入れるので、積極的に参加するようにしてください。
- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失います。
- ・内職、携帯電話の使用、厳禁。もし違反しているものを見ついたら、退室してもらいます。
- ・教科書を必ず購入すること。購入しない場合は履修資格を失うことになるので、注意してください。

7. 教科書・参考書

教科書：『リーディング中心の英語総合演習』（金星堂）

8. オフィスアワー等

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 上村 隆一

1. 概要

理工系学生が各自の専門分野に進むための基本的な知識を習得しながら、論理的な英文の構成・展開方法を学ぶ。その上で、具体的な自然科学分野の英文教材を使いながら、基礎語彙・特有の語法と効果的な読解スキルを身につけることができるよう、例題とエッセイの実例を使った演習を行う。

2. キーワード

文章構造、論理展開、技術語彙、パラグラフ・リーディング

3. 到達目標

理系学生に必要な英語基礎技術語彙・語法の習得と論理的な英文の構造理解および読解スキルの向上。

4. 授業計画

1. Introduction — Course overview
2. Reasons/Conclusions
3. Analysis (Social Phenomena)
4. Analysis (Evidence)
5. Controversy
6. Comparison/Contrast
7. Classification
8. Chronological Order (History)
9. Cause & Effect
10. Process Analysis
11. Explanation (Theory)
12. Definition
13. Explanation (Experiment)
14. Graph Analysis
15. New Business

5. 評価方法・基準

期末試験（50%）および授業時の小テスト（30%）および授業時課題（20%）

試験・テスト平均が60%を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してください。

7. 教科書・参考書

Y.Ishitani & S.Embury: *Outlook on Science and Technology — Skills for Better Reading* Ⅲ (南雲堂、2007)

8. オフィスアワー等

特になし。科目担当者への質問等は uemura@env.kitakyu-u.ac.jp までメールでお願いします。(携帯メールは不可。)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 坂口 由美

1. 概要

このクラスではさまざまな会話の場面で用いられる表現を学び、それを応用し運用できる力をつけることを目標とする。

同時に基本的な英文法も取り入れ、練習問題をするることによってこれまでの知識をさらに確実なものにすることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、国際理解、外国事情、コミュニケーションング リッシュ

3. 到達目標

国際人を目指すために必要な最低限の日常会話ができるようになること、同時にどんな場面に遭遇しても英語を使うことに物怖じしない態度をやしなう。

4. 授業計画

1. 授業計画及び授業内容の紹介
2. あいさつ
3. 紹介
4. あいづち
5. 聞き返し
6. 感謝
7. 謝罪
8. 依頼
9. 勧誘・招待
10. 提案
11. 助言
12. 同意
13. 意見
14. 総復習・試験前対応
15. 試験

★ 授業形態は学生を中心とした演習方式で行う。

5. 評価方法・基準

- ・期末試験70% 出席30%
- ・総合評価で60%以上を合格とする。
- ・期末試験については筆記は行わず、グループでの発表形式とする。
- ・授業中の積極的な発表、無遅刻、無欠席については加算点あり。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・授業全体の3分の2以上の出席がない場合は履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは減点、除名もあり。
- ・辞書必携
- ・予習・復習は必須。特に復習についてはその日に学習した表現を繰り返し練習し、暗記することで表現力アップにつながる。
- ・TV・DVD・映画等を利用し、英語圏の文化や日常会話表現などに親しんでおく授業がより理解しやすくなる。

7. 教科書・参考書

Enjoy Speaking (Asahi Press)

8. オフィスアワー等

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではアカデミック領域に関する様々な内容を読む。語、慣用表現、修辭的特徴について学び、辞書や文脈の有効な活用法を練習する。読解に重点を置くが、読んだ内容について話したり書いたりする活動も行う。

2. キーワード

Academic reading, Academic words, Reading comprehension, Reading skills

3. 到達目標

アカデミックテキストをある程度のスピードを持って読み、理解し、必要な情報を得ることができる。

4. 授業計画

1. Learning Styles
2. Stress in College Life
3. Education
4. Business
5. Marketing
6. Economics
7. Psychology
8. History
9. Political Science
10. Linguistics
11. Environmental Science
12. Geology
13. Chemistry
14. Information Science and Technology
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (30%)、中間試験 (20%)、クイズ・課題 (30%)、授業への積極的参加 (20%)。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 以上の出席がないと履修資格を失う。

予習・復習を必ず行う。

7. 教科書・参考書

Introduction to Academic Reading [Cengage Learning]

8. オフィスアワー等

kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

件名欄に氏名と学生番号を書いて下さい。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 香子

1. 概要

昨今では様々な手段で情報を手に入れることができる。しかし、文字で書かれた全ての情報が客観性を持つとは言いがたく、(母国語でも同様だが) その内容を読み解き、その信憑性を判断しなければいけない時代にあることは否めない。現在社会で議論されている数々のトピックを今一度英語で読むことで読解力など英語の技能を養うことはもちろんだが、それに対してどのような意見を持つか、それはなぜかなどを共に考え、情報分析能力を高めることも本課目の目的である。

2. キーワード

カルチャラル・リテラシー、社会 (国際) 問題、情報分析、判断力養成

3. 到達目標

ある程度長さがある英文を読み、系統立てて理解する能力を伸ばすだけでなく、リスニング力、アクティビティを通してその中に出てくる英語表現を口頭・文章で活用する力を伸ばす。また、読解後の各々の分析と意見も到達の目安とする。最終的には、英語を異質な「記号」として捉えず、情報を得るためのソースとして活用できるようにしたい。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Information and Misinformation
3. Saving Tropical Rainforests: Creative Approaches
4. Concerning Happiness
5. Gizmo Addiction
6. Coping with Noise
7. The Whaling Debate
8. Food: Not Just a Commodity
9. Sweatshop Labor
10. Japan's Declining Population
11. Poverty: Meeting the Millennium Development Goals
12. Global Warming: Beyond Kyoto
13. Energy: Is Nuclear Power Part of the Solution
14. まとめ
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験60%、アクティビティ・小テストなど授業中の活動40%。授業での積極的発表を参加点として考慮する (逆の場合点がマイナスされることもある)。総合評価で60%以上が合格となる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業の予習・準備はもちろん、復習・テストの準備など、授業に有効な活動は自主的に行うこと。(評価の対象にもなる)
- ・授業中に社会人としてのマナーを守る事も必須。大幅な遅刻は欠席とみなし、授業態度が悪質な場合は除名する。みなで気持ちよく学習できる環境を作る態度が最も望ましい。

7. 教科書・参考書

Confronting the Issues 世界と向き合うための12章 (金星堂)
プリント 他

8. オフィスアワー等

質問等は授業前後に受け付ける。

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
- 2) To deepen their understanding of current events in the world

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：ediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

4. 授業計画

- | | |
|---------|---|
| Week 1 | Explaining Japanese Sports and clubs |
| Week 2 | Explaining Japanese Music |
| Week 3 | Explaining Japanese Food |
| Week 4 | Explaining Japanese Handicrafts |
| Week 5 | Explaining Japanese Holidays |
| Week 6 | Explaining Japanese Games |
| Week 7 | Explaining Japanese Cities and Places |
| Week 8 | Explaining Japanese Relaxation Practices |
| Week 9 | Explaining Famous Japanese People |
| Week 10 | Explaining Japanese Superstitions |
| Week 11 | Explaining Japanese Animations |
| Week 12 | Explaining Japanese Arts and Theater |
| Week 13 | Explaining Japanese Etiquette and Customs |
| Week 14 | Explaining Japanese Buildings and Gardens |
| Week 15 | Exam |

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.

Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
Tuesday: 10:00 - 5:00

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

主体的な英語学習態度を身に付ける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 University Lifestyles
3. 発表
4. Unit 2 Career Choices
5. 発表
6. Unit 7 Love in the Virtual World
7. 発表
8. Unit 8 The Wonderful World of English(es)
9. 発表
10. Unit 10 Be a Critical News Consumer
11. 発表
12. まとめ
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：World in Motion: Life in the 21st Century (金星堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 Angkor, Cambodia
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Mausoleum of the First Qin Emperor, China
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Ajanta Caves, India
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Gusuku Sites, Kingdom of Ryukyu
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Petra, Jordan
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Historic District of Quebec
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 Rapa Nui National Park
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students.
(Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- To make students feel more confident about using English for communication.

4. 授業計画

1. Introductions
2. Getting ahead
3. Modern survival
4. Coincidences
5. Friends
6. Small talk
7. True love
8. The daddy of discipline
9. That's funny
10. A perfect weekend
11. Just the job
12. In the media
13. Ready to cook!
14. Revision
15. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
 - do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
 参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

Week	Topics	Interaction	Grammatical focus
1.	Crazy Fashions the Norm	Paired Interviews	(Responding to Opinions; making observations)
2.	Marriage Under the Microscope	Consultations	(Summarizing; reacting; recommending)
3.	Wireless Japan	Debates	(Accepting, rejecting statements; mediating)
4.	My Grandfather's Binbogami	Group Work	(Forming a consensus, sharing opinions)
5.	Review	Paired Discussions	All forms
6.	E-Commerce	Surveying	(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)
7.	Rap and Hip-Hop Music	Paired Interviews	(Responding to Opinions; making observations)
8.	Review	Paired Discussions	All Previous forms
9.	Children: A Different Breed	Consultations	(Summarizing; reacting; recommending)
10.	Competitive Sports	Debates	(Accepting, rejecting statements; mediating)
11.	Women Managers	Group Work	(Forming a consensus, sharing opinions)
12.	Social Activists	Surveying	(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)
13.	Review	Paired Discussions	All forms
14.	Review	Paired Discussions	All forms
15.	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1-4116-28039

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
 Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B I Advanced English B I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ、海外情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等海外に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1 年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等海外を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EU のみならず殆どの国は今や英語だけで歩ける。

4. 授業計画

1. ヨーロッパのステレオタイプ
2. ヨーロッパ文化とは
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換(1)
12. インターネット情報交換(2)
13. インターネット情報交換(3)
14. インターネット情報交換(4)
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。

英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。予習しない学生は参加不可

7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture (成美堂)
2. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2:30 - 4:00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。
 murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B I Advanced English B I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行なう。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーションできるレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8 割程度、またその延長線上にある presentation に 2 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・30%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・50%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上級英語 C I Advanced English C I

担当学年： 3、4 年次 担当学科：全学科
学期：前期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づく
ディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文など
である。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション
能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと
自分の意見が示せることが出来るようになることが目標であ
る。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的
思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験30%、平常点70%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条
2）
- ・ 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・ 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図
書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業
中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書： Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心があ
る人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14：30-16：00)
(総合教育棟 4 階：412)

技術英語 I Technical English I

担当学年：3・4 年次 担当学科：全学科
学期：前期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the
class is also evaluated by the weekly assignments, time spent
on various speaking topics, and email assignments. Extra
credit can be earned through presentations and through the
writing/email assignments. The syllabus provides engineering
topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development,
civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering,
material, general issues

3. 到達目標

The course aim is to help students to develop their speaking,
reading, and writing abilities and to become more familiar
with technical vocabulary, and expressions in their own field
of engineering. The syllabus provides engineering topics for
students in their own field

4. 授業計画

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical Engineers
1. Corrosion	Local Area Network	Fluid Mechanics	Structural Analysis	Electrical Resistance
2. Bonding	Peer-to-Peer Network	Mechatronics	Seismic Engineering	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams	Electric Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Networks	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Optimization	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams
7. Absorption	Software Engineering	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical Chemistry	Computer Architecture	Drafting	Fire Protection Engineering	Voltage
9. Catalysis	Operating Systems	Piping	Geotechnical Engineering	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals and Fittings	Transport Engineering	Microelectronics
11. Chemical Reactors	Artificial Intelligence	Values	Environmental Engineering	Signal Processing
12-14. Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email
assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-
city. Students can choose any factory to visit, such as Toto,
Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards
will be expected to write, in English, on what he or she learned.
Students are highly encouraged to find more information on
the topics above from the Internet and to provide interesting
comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen,
Perceptia Press
ISBN# 4-939130-93-2

8. オフィスアワー等

Monday: 10：00－5：00
Tuesday: 10：00－5：00

総合英語 A II Comprehensive English A II

担当学年：1 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth Steele, Andrew Watt, Adam Stott, Alex Bodnar

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2）

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Language to go – Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー等

Mondays, 12.00-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

授業で実践した勉強法を身に付け、今後の自主学習に活用する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 19 Facing the Truth
3. 発表
4. Unit 20 The Pleasure of the Text (1)
5. 発表
6. Unit 21 The Pleasure of the Text (2)
7. 発表
8. Unit 22 The Secrets of the Bedroom (1)
9. 発表
10. Unit 23 The Secrets of the Bedroom (2)
11. 発表
12. Unit 26 From Schoolgirl in China to Epitome of Japan's Culture (1)
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 教科書・参考書

教科書：Global View (朝日出版社)

Listening Partner: An Intermediate Course
(金星堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：建設社会工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科・
総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ勉強し、並行して時事英語に関連する分野の英語力、語彙力を高め、社会各方面への関心を高める。社会での実際の使用に耐える英語力になるよう、さらにステップアップさせ、様々な IT を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。

各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい

2. キーワード

国際英語、IT、英語聞き取り法、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法（冠詞）、時事英語
2. 放送英語の聞き取り法（代名詞）、時事英語
3. 放送英語の聞き取り法（前置詞）、時事英語
4. 放送英語の聞き取り法（助動詞・接続詞）、時事英語
5. 放送英語の聞き取り法（リズムによる短縮）、時事英語
6. 放送英語の聞き取り法（母音弱化）、時事英語
7. 放送英語の聞き取り法（リエゾン）、時事英語
8. 放送英語の聞き取り法（語中の t）、時事英語
9. 放送英語の聞き取り法（音声同化）、時事英語
10. 放送英語の聞き取り法（音声同化）、時事英語
11. 放送英語の聞き取り法（子音連鎖 1）、時事英語
12. 放送英語の聞き取り法（子音連鎖 2）、時事英語
13. 放送英語の聞き取り法（慣用語句）、時事英語
14. 放送英語の聞き取り法（語尾発音）、時事英語
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 50%、期末試験を 50% とする。

活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（CD 付き）（三修社）
2. News Digest Beginners (The Japan Times)
3. （参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30 - 4：40。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet ?
4. Are We Grown Up Yet ?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験—60%
- (2) 授業での小テスト—20%
- (3) 授業での発表やレポート—20%

総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

言語科学、文学、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界的に膾炙している文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニングについては、比較的易しいが長めのものに慣れていく練習を行う。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (1)
3. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (2)
4. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (3)
5. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (4)
6. Ellipsis by Alain de Botton (1)
7. Ellipsis by Alain de Botton (2)
8. Ellipsis by Alain de Botton (3)
9. Review Test 1
10. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (1)
11. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (2)
12. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (3)
13. But Is It Language? by Roger Fouts and Stephen Tukul Mills (1)
14. But Is It Language? by Roger Fouts and Stephen Tukul Mills (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験60%、小テスト、授業中の作業など40%。積極的な発表などの参加点を考慮する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：SCOPE (研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限（14：30～16：00）

（総合教育棟 4 階：S412）

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニングも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

様々な分野の英語を数多く読み、情報収集ができるようになる。人前で自分の言いたいことを英語・日本語の両方で伝えられるようになる。簡単な英語の話を聞き取れるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点（30%）発表（30%）期末試験（40%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自確認すること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語で自分の意見を形成するには、賛否両論の立場から考えることが有効である。この授業では、現代の諸問題に関する賛否両論を英語で学ぶとともに、自分の意見を英語で伝達する練習を行なう。

2. キーワード

論理的思考力、表現力、スピーチ

3. 到達目標

現代の諸問題について自分の意見を英語で伝達する方法を習得する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Should Cloning Be Allowed?
3. Chapter 2 Do UFOs and Aliens Exist?
4. Chapter 3 Should violence Be Allowed on TV?
5. Chapter 4 Is Cosmetic Surgery OK for Young People?
6. Chapter 5 Should GM Foods Be Banned?
7. Chapter 7 Do Robopets Make Better Pets than Living Pets?
8. Chapter 8 Is the Communicative Approach More Effective?
9. Chapter 9 Should the Prime Minister Be Elected by Direct Popular vote?
10. Chapter 10 Should Japan Be Allowed to Become a Military Power?
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ インターネットや図書館を利用し、授業で扱うトピックについて自主的に調べたり、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴したりすることを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Yeas and Nays: Current Issues for Debate and Discussion (マクミラン ランゲージハウス)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ勉強し、並行して時事英語に関連する分野の英語力、語彙力を高め、社会各方面への関心を高める。社会での実際の使用に耐える英語力になるよう、さらにステップアップさせ、様々な I T を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。

各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい

2. キーワード

国際英語、I T、英語聞き取り法、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の増強。

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法 (冠詞)、時事英語
2. 放送英語の聞き取り法 (代名詞)、時事英語
3. 放送英語の聞き取り法 (前置詞)、時事英語
4. 放送英語の聞き取り法 (助動詞・接続詞)、時事英語
5. 放送英語の聞き取り法 (リズムによる短縮)、時事英語
6. 放送英語の聞き取り法 (母音弱化)、時事英語
7. 放送英語の聞き取り法 (リエゾン)、時事英語
8. 放送英語の聞き取り法 (語中の t)、時事英語
9. 放送英語の聞き取り法 (音声同化)、時事英語
10. 放送英語の聞き取り法 (音声同化)、時事英語
11. 放送英語の聞き取り法 (子音連鎖 1)、時事英語
12. 放送英語の聞き取り法 (子音連鎖 2)、時事英語
13. 放送英語の聞き取り法 (慣用語句)、時事英語
14. 放送英語の聞き取り法 (語尾発音)、時事英語
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（CD 付き）（三修社）
2. News Digest (The Japan Times)
3. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30 - 4：00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

科学分野の知的的好奇心を刺激する英文を読むことにより英語の総合能力を向上させる。将来科学分野の英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

現代社会を読み解く、評論、コラム、小説、スクリーンプレイ、エッセイ、書評など様々なスタイルの文章にあたることで、英語で現代文化を感じる授業である。同時に読解とリスニング能力の向上を目指す。

2. キーワード

現代文化

3. 到達目標

内容面では、現代文化における、さまざまな局面について英語で理解することが出来ること。また、それに対して批判的な意見を持つことが出来ること、である。技能面では、読解における全体理解ができることと、リスニングにおいて要点理解ができること、である。

4. 授業計画

1. Introduction
2. I AM from a Family of Artists by Kurt Vonnegut
3. Backstroke by Yoko Ogawa
4. Lost Worlds: The Challenge of the Islands by Rachel Carson
5. Why Japanese Succeeded by Jared Diamond
6. Virtual Violence by Ian Buruma
7. The Other America: Poverty in the United States by Michael Harrington
8. Revise Test 1
9. The Lost Voice of Protest by Bob Herbert
10. Akeelah and the Bee by Doug Atchison
11. The Shock of Teapots by Cynthia Ozick
12. Unstrange Minds: Remapping the World of Autism by Roy Richard Grinker
13. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner by James Hogg
14. A Society by Virginia Woolf
15. Revise Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業内での作業を総合して行う。総合評価で60点を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：佐久間みかよ、WISH（研究社）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限（14：30～16：00）

（総合教育棟 4 階：S412）

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

4. 授業計画

第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング

第2回 Analysis (1)

第3回 Analysis (2)

第4回 Analysis (3)

第5回 Analysis (4)

第6回 Definition (1)

第7回 Definition (2)

第8回 Definition (3)

第9回 Definition (4)

第10回 Chronological Order (1)

第11回 Chronological Order (2)

第12回 Chronological Order (3)

第13回 Chronological Order (4)

第14回 課題作成

第15回 課題発表

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

自主学習として、図書館の *Japan Times* や、インターネットで週刊 *ST*、*Daily Yomiuri* などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 江口 雅子

1. 概要

本授業は、新聞記事をはじめとして、出典もスタイルも多岐にわたる素材を扱い、上級の学習者が多様な英語に触れるようにする。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力向上のための指標となるような授業にする。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、国際性

3. 到達目標

本授業では、多様な英文に触れながら文化的背景や英語に関する知識を教え、英文の内容を理解する実践力を養うことを到達目標とする。リスニング能力については、毎回生きた素材の英語をテーマごとに繰り返し聞くことにより、まとまりのある談話の概要や内容を適切に把握することを目指す。また、コミュニケーションの現場の実践的リスニング能力を向上させ、自然な応答能力を強化する。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主的学習を期待する。

4. 授業計画

1. Introduction

2. Culture 1 : Move Over, Please

3. Culture 2 : What's So Funny?

4. Culture 3 : All That Jazz

5. Education 1 : Access @ Anywhere

6. Education 2 : Knowing the Score

7. Education 3 : Mind the Gap

8. Health & Social Welfare: A Reason for Living

9. People & Society 1 : A Win-win Situation

10. People & Society 2 : Thinking about Drinking

11. People & Society 3 : What a Character!

12. IT 1 : At Your Fingertips

13. IT 2 : None of Your Business

14. IT 3 : Footnoting the Web

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業出席・発表点50%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

・全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。

・講義内容の十分な理解を得るために、予習、復習を必須とする。

・「今の」英語に触れるため、NHKテレビあるいはラジオの英語語学番組を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Power-Up English <Advanced> (南雲堂)

参考書：リーダーズ英和辞典、リーダーズ・プラス (研究社)

Longman Dictionary of English Language and Culture (文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

Seiko, Sharp, Casio の電子辞書 (英語専用モデル) を勧める。

8. オフィスアワー等

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、難易度の高い英語の読破を目指すと共に、論点を掴む読み方や英語表現の活用を実践する。そのため授業では、文章の構造を踏まえつつ、難解な文章を含んだ英文をたくさん読みこなし、それと共に、英語を読む中でこれから学生自身が使えるような表現を各自が自分のものとできるような取り組みを実践する。

2. キーワード

環境問題、科学、インターネット

3. 到達目標

本授業は、レベルの高い、科学的な内容を含んだ文章を読み、論点を掴むということを実践する。更に、研究論文等で使えるような表現を自主的に纏めるということを実践する予定である。この授業により、「考えながら英語を読む」ということと、「どのように英語の文章が書かれているのか」ということが理解できたかと思っている。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Big Bang — The evolution of the universe
3. Spaceship Earth — How fast are we going?
4. Plate tectonics — Does the Earth move?
5. Global warming — Getting warmer
6. Weather — Everyone's a meteorologist
7. Salinization and desertification — Our impact on the land
8. Telescopes — A closer look
9. Exploring the oceans — The underwater world
10. Antarctica — The frozen continent
11. Instruments of observation — The smaller you get
12. The Global Positioning System — Where am I?
13. The development of life — Explosions and extinctions
14. Human evolution — Our early ancestors
15. 試験

※進度により変更する場合があります。

5. 評価方法・基準

定期試験70%、提出課題30%（予定）。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。この評価基準は現在の予定です。正確な評価基準は第1回目の授業の際に告知します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Our Home the Earth（現代の科学と地球環境）
成美堂

※関連した記事があればその都度配布します。

参考書：※予習には辞書が必要となってきます。

- ・電子辞書（できれば英語専用モデルのもの）があると便利でしょう。
- ・英英辞書（Oxford Advanced Learner's Dictionary 等）も使えると英語学習に役立ちます。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー等はありませんが、質問がある場合には、e-mail等で受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 梅田 真理

1. 概要

本授業では、社会問題や海外のトピックについてのリーディング、リスニング、ディスカッション、そしてライティングを通して英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を総合的に向上することを目標とする。授業ではパラグラフ・リーディングとサマリー・ライティングについても学習する。

2. キーワード

社会問題、異文化理解

3. 到達目標

パラグラフ・リーディングを通し、英語のパラグラフ構成を理解し、リーディング能力の向上を目指したい。また、ディスカッションやライティングなど演習を通し、自ら英語で意見を述べることを学んでもらいたい。

4. 授業計画

1. Introduction — Paragraph reading
Chapter 1 : University Lifestyles
2. Chapter 1 : University Lifestyles
3. Chapter 2 : Career Choices
4. Chapter 3 : Telecommuting
5. Chapter 4 : Slow Food
6. Chapter 5 : The Last Art of Conversation
7. Chapter 6 : See You in Cyberspace!
8. Chapter 7 : Love in the Virtual World
9. Chapter 8 : The Wonderful World of English (es)
10. Chapter 9 : The Wisdom of Crowds
11. Chapter 10 : Be a Critical News Consumer
12. Chapter 11 : What's your Carbon Footprint
13. Chapter 12 : Ecotourism
14. Chapter 13 : Authentic Happiness
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（中間・期末）70%、小テスト 20%、サマリー 10%。
総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・リーディング中心ですが、発表やディスカッションも多く取り入れるので、積極的に参加するようにしてください。
- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失います。
- ・内職、携帯電話の使用厳禁。もし違反しているものを見つけたら、退室してもらいます。
- ・教科書を必ず購入すること。購入しない場合は履修資格を失うことになるので、注意してください。

7. 教科書・参考書

教科書：『World in Motion — Life in the 21st Century』（金星堂）

8. オフィスアワー等

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 上村 隆一

1. 概要

高度情報化社会で必要とされる技術系の英文理解につながる読解スキル習得を目指した演習を行う。英文のパラグラフで用いられる主要な構造パターンに着目し、特徴的な論理展開を学習する。1 つの構造パターンに対して複数の教材ユニットを用意しており、実用的な読解能力を身につけやすいよう工夫してある。教科書で扱う素材は、情報科学や技術系専門雑誌から得られた知識を基に書き下ろされたもので、語彙レベルも難解になりすぎないよう配慮している。

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

理系学生にとって、各自の専門分野に関する英語文献を読みこなす上で必要とされる論理的な文章構造の把握、読解スキルの向上

4. 授業計画

1. Introduction: Course overview
2. The Uncanny Valley
3. Biotope
4. Church of the Light
5. Energy-efficient Housing
6. Universal Design
7. Living with Robots
8. Still Evolving After All These Tears
9. Choosing and Protecting Passwords
10. Linux
11. Stein Cells — A Miracle Cure?
12. Earth Batteries
13. Predicting Intentions
14. Urban Heat Islands
15. 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（50%）および授業時の小テスト（30%）および授業時課題（20%）

試験・テスト平均が60%を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。オンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してください。

7. 教科書・参考書

K.Hitomi,H.Yoshida and E.Yubune: *Paragraph Reading:21 World-Changing Innovations* (南雲堂、2008) 授業中に適宜ウェブ上の関連情報を紹介する。

8. オフィスアワー等

特になし。科目担当者への質問等は uemura@env.kitakyu-u.ac.jp までメールでお願いします。（携帯メールは不可。）

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 坂口 由美

1. 概要

このクラスでは基礎的な会話表現がほぼ身についていると思われる学生を対象に、さまざまな会話の場面で用いられる表現を学び、それを応用し運用できる力をつけることを目標とする。

同時に基本的な英文法も取り入れ、練習問題をするることによってこれまでの知識をさらに確実なものにすることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、国際理解、外国事情、コミュニケーションングリッシュ

3. 到達目標

国際人を目指すために必要な最低限の日常会話ができるようになること、同時にどんな場面に遭遇しても英語を使うことに物怖じしない態度をやしなう。

4. 授業計画

1. 授業計画及び授業内容の紹介
2. 意思
3. 命令
4. 約束
5. 許可
6. 選択
7. 称賛・祝い
8. 心配・喜び・悲しみ
9. 恐怖・怒り・驚き
10. 電話
11. 時間
12. 日付・曜日
13. 年齢
14. 総復習・試験前対応
15. 試験

★ 授業形態は学生を中心とした演習方式で行う。

5. 評価方法・基準

- ・期末試験70% 出席30%
- ・総合評価で60%以上を合格とする。
- ・期末試験については筆記は行わず、グループでの発表形式とする。
- ・授業中の積極的な発表、無遅刻、無欠席については加算点あり。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・授業全体の3分の2以上の出席がない場合は履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは減点、除名もあり。
- ・辞書必携
- ・予習・復習は必須。特に復習についてはその日に学習した表現を繰り返し練習し、暗記することで表現力アップにつながる。
- ・TV・DVD・映画等を利用し、英語圏の文化や日常会話表現などに親しんでおくことで授業がより理解しやすくなる。

7. 教科書・参考書

Enjoy Speaking (Asahi Press)

8. オフィスアワー等

メールアドレス

yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 熊谷 美佐子

1 概要

この授業ではリーディングスキルや語彙の強化を図る。内容について考えたことを英語で述べる、議論する、書いて纏める練習も行う。

2. キーワード

Reading comprehension, Reading skills, Oral presentation, Writing skills.

3. 到達目標

様々なトピックについて程度のスピードを持って読み、理解し、その内容についての考えを英語で、口頭あるいは書いて表すことが出来る。

4. 授業計画

1. Crime and Punishment
2. Crime and Punishment
3. (Speaking & Writing)
4. Immigration
5. Immigration
6. (Speaking & Writing)
7. Marriage
8. Marriage
9. (Speaking & Writing)
10. Gender Issues
11. Gender Issues
12. (Speaking & Writing)
13. Sanity
14. Sanity
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (30%)、中間試験 (20%)、クイズ・課題 (30%)、授業への積極的参加 (20%)。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 以上の出席がないと履修資格を失う。

予習・復習を必ず行う。

7. 教科書・参考書

Hot Topics (3) [Cengage Learning]

8. オフィスアワー等

メールアドレス：Kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

件名欄に氏名と学生番号を書いて下さい。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 香子

1 概要

世界および日本で議論されている数々の問題は、耳にすることは多くても、共に熟考し、話し合うチャンスは意外と少ない。そのようなトピックを今一度英字新聞等の抜粋で読み、それに対してどのような意見を持つか、それはなぜかなどを共に考えることで情報分析能力を高め、同時に時事問題を理解し、英語で語り合うための読解力・リスニング力・表現力などの英語の技能を養うことが本課目の目的である。

2. キーワード

カルチャラル・リテラシー、社会（国際）問題、情報分析、判断力養成

3. 到達目標

ある程度長さがある英文を読み、系統立てて理解する能力を養う。また、リスニング力、アクティビティを通してその中に出てくる英語表現を口頭・文章で活用する力を伸ばす。読解後の各々の分析と意見も到達の目安とする。最終的には、英語を異質な「記号」として捉えず、情報を得るためのソースとして活用できるようにしたい。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Ishigaki: A Model for Japan
3. Confronting Marital Violence Behind the Shoji Screen
4. Cultural exchange is a form of national security
5. Japan must lead way in conservation and recycling
6. Lawmakers turned off by bureaucrats' birth-promotion moves
7. Everything under the sun at Tokyo lost-and-found
8. The tragedy of the world's child soldiers
9. Americans and Guns
10. Muslim Mind, Female Body
11. Iranian Director scoffs at scandal, focuses on Afghan misery
12. Police Moves on L.A. Teen Not 'Reasonable' — Excerpt
13. The bombs that keep on killing
14. まとめ
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験60%、アクティビティ・小テストなど授業中の活動40%。授業での積極的発表を参加点として考慮する（逆の場合点がマイナスされることもある）。総合評価で60%以上が合格となる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 授業の予習・準備はもちろん、復習・テストの準備など、授業に有効な活動は自主的に行うこと。（評価の対象にもなる）
- ・ 授業中に社会人としてのマナーを守る事も必須。大幅な遅刻は欠席とみなし、授業態度が悪質な場合は除名する。みなで気持ちよく学習できる環境を作る態度が最も望ましい。

7. 教科書・参考書

日本と世界の情勢を知る 12 の記事ーリーディングとリスニング (金星堂)

プリント 他

8. オフィスアワー等

質問等は授業前後に受け付ける。

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
- 2) To deepen their understanding of current events in the world

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：*Language to go* - Intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality / quantity / size / shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

4. 授業計画

	Language Function	Topic 1	Topic 2	Topic 3
Week 1	Explaining One's Area of Engineering	Sub-disciplines	Areas of Interest	Problems and Solutions
Week 2	Explaining Measurements, Shapes, Sizes	Gas Turbines	Surveying	Euclidean Transformation
Week 3	Explaining Processes	Heat Transfer	Distillation Processes	Signal Processing
Week 4	Explaining Changes and Innovations	Polymers and Plastics	Refrigeration	Solar Energy
Week 5	Explaining Functions	Transformers	Lasers	Combustion Engine
Week 6	Explaining Kinds, Categories, and Types	Corrosion	Soil Erosion	Bridges
Week 7	Explaining Advantages	Urban Analysis	Pneumatics	Seismic Engineering
Week 8	Explaining Objectives and Reasons	Electrical Resistance	Structural Design / Analysis	Process Design
Week 9	Explaining Outcomes	Image Processing	River Channelization	Electromagnetism
Week 10	Explaining Principles, Laws, Concepts	Control Theory	Conservation of Mass	The Laws of Thermodynamics
Week 11	Explaining Aspects and Features	High Definition TV	Water Purification	Hydraulic Engineering
Week 12	Explaining Famous Projects	Environmental Engineering	Tunnels	Highways
Week 13	Explaining Important Innovations	Electric Light	Refrigeration	Maglev Train
Week 14	Explaining Properties of Materials	Metals	Ceramics	Plastics
Week 15	Exam	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering
Robert Long. Lulu Press.

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
Tuesday: 10:00 - 5:00

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

主体的な英語学習態度を身に付ける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Cell Phones
3. Unit 4 Vending Machines in Japan
4. Unit 6 The Global Economy
5. Unit 9 Food Miles
6. Unit 11 Getting Richer, Getting Poorer
7. Unit 12 United Nations Millennium Development Goals
8. Unit 15 The Green Belt Movement
9. Unit 16 The “New” JICA
10. Unit 18 Safe Driving
11. Unit 19 The Keys to Happiness
12. まとめ
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やAVブース、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Life in Our Global Village (三修社)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：1 年次以上 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 Uluru-Kata Tjuta National Park
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Historic Center of Brugge
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 La Grand-Place Brussels
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Archaeological Areas of Pompeii
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Church and Dominican Convent of Santa Maria
- 第11回 スピーチと議論 delle Grazie
- 第12回 スピーチと読解 Alhambra, Granada
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 Acropolis, Athens
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 A II Advanced English A II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- To make students feel more confident about using English for communication.

4. 授業計画

16. Introductions
17. Contact
18. Two cities
19. Round the clock
20. Person to person
21. Positive thinking
22. Money talks
23. Unlucky for some
24. Taxi!
25. Major events
26. Street life
27. Gun crazy
28. Difficult situations
29. Revision
30. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
- do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
 参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A II Advanced English A II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech. The focus is on topics from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

Week	Topics	Interaction	Grammatical focus
1.	Family	Pair work	Asking Questions
2.	Beauty	Pair work	Assertions and Disclaimers
3.	Discipline	Pair work	Comments and Reflections
4.	Expertise	Surveys	Comparisons and Suggestions
5.	Individualism	Surveys	Observation and Criticism
6.	Entertainment	Surveys	Preferences and Recommendations
7.	Obligation	Group work	Explanations and Excuses
8.	Sports	Group work	Comparisons / Complaints
9.	Equality	Group work	Opinions and Rationalizations
10.	Power	Debates	Claims and Conjectures
11.	Dependence	Debates	Descriptions and Testimonies
12.	Discipline	Debates	Choices and Judgments
13.	Review	Paired discussions	All Previous forms
14.	Reviews	Paired discussions	All Previous forms

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Speeches: Extra Credit Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner about some cultural theme that he or she is interested in, and to provide a report of the interviewee's most interesting answers.

7. 教科書・参考書

Culture Compass Lulu Press ISBN 1-4116-4484-0 Robert Long

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
 Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等海外に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1 年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等海外を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EU のみならず殆どの国が今や英語だけで歩ける。

4. 授業計画

1. ヨーロッパの女性
2. ヨーロッパの家族
3. ヨーロッパの健康
4. クリスマス
5. 迷信
6. 個性の重要性
7. ヨーロッパの教育
8. 社会行事
9. ヨーロッパの移民
10. ヨーロッパの今後
11. インターネット情報交換（1）
12. インターネット情報交換（2）
13. インターネット情報交換（3）
14. インターネット情報交換（4）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。

英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。予習しない学生は参加不可。

7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture
 （成美堂）
- 2.（参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30－4：00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。
 murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：(1)・2・3・4 年次
 担当学科：全学科 学期：後期 単位数：1 単位
 必修・選択の別：選択
 担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行なう。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーションできるレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8 割程度、またその延長線上にある presentation に 2 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・30%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等
 ...50%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）
 火曜日 4 限（14：30-16：00）
 （総合教育棟 4 階：412）

上級英語 C II Advanced English C II

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科
学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択
担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づく
ディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文など
である。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション
能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと
自分の意見が示せることが出来るようになることが目標であ
る。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的
思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験30%、平常点70%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書： Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4限 (14:30-16:00)
（総合教育棟 4階：412）

技術英語 II Technical English II

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科
学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択
担当教員 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the
class is also evaluated by the weekly assignments, time spent
on various speaking topics, and email assignments. Extra
credit can be earned through presentations and through the
writing/email assignments. The syllabus provides engineering
topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development,
civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering,
material, general issues

3. 到達目標

The course aim is to help students to develop their speaking,
reading, and writing abilities and to become more familiar
with technical vocabulary, and expressions in their own field
of engineering. The syllabus provides engineering topics for
students in their own field

4. 授業計画

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical Engineers
1. Thermodynamics	Programming Paradigm	Aerospace engineering	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Ionising radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	TRIAC
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Gravitational erosion	Thermionic emissions
5. Biochemical Engineering	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Management	High Definition TV
6. Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Pollution Controls: Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage Water Systems	Transmission Lines
10. Polymers	Theories of Computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse Engineering	Refrigeration	Hazardous Waste Management	Programmable Logic Controllers
12.-14. Reviews and Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email
assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city.
Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
Tuesday: 10:00 - 5:00

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母(国)語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性(真の国際性の養成)

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ること、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目(各1単位)がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語 AI」(前期)、「基礎ドイツ語 A II」(後期)、「基礎ドイツ語 B」(前期又は後期)が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語 AI」(前期)、「基礎中国語 A II」(後期)、「基礎中国語 B」(後期)が必修となる。

4月に「基礎ドイツ語 AI」又は「基礎中国語 AI」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更出来ない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語 AI」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語 A II」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を必修科目として履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することが出来る。

【ドイツ語を学ぶ意義】

(1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義をあるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

(2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

(3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

(ア) 多元的社会の創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺の諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会を実現している。

EU は国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会を目指している。ドイツは EU の中心的な役割を担っており、多元的社会の創造に寄与している。

(イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

(ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

(エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアドラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡ることのできるスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】 基礎ドイツ語 A I（前期 1 単位）、
基礎ドイツ語 A II（後期 1 単位）
基礎ドイツ語 B（前・後期 1 単位）
- 【選択】 選択ドイツ語 A（前・後期 1 単位）
選択ドイツ語 B I（前期 1 単位）
選択ドイツ語 B II（後期 1 単位）
選択ドイツ語 C I（前期 1 単位）
選択ドイツ語 C II（後期 1 単位）

1. ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってものを考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A IIにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
2. 基礎ドイツ語 B においては、『母(国)語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化ともっとも直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 B においては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語 A も併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 A において目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 B の発展である。
3. 選択ドイツ語 B I・B IIにおいては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。
- いづれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。
4. 選択ドイツ語 C I・C IIにおいては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

【履修上の注意点】

- (1) 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。
- (2) 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C IIを積極的に受講することが望ましい。

※再履修に関して

- (1) 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。
- (2) 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
- (3) 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能工学科 第 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持っていく。

4. 授業計画

教科書は 15 課からなっているが、第 7 課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明＋練習」、「練習問題」という構成である。授業では 2 回に 1 課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1 回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書:尾川浩/江代修/金関猛著「ドイツ文法 15 課」(三修社)

独和辞典:第 1 回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後 2 時から午後 6 時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟 3 階東側 313。

E-mail:imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

機械知能工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅠの授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：成田節「練習で覚える ドイツ語初級文法」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

機械知能工学科・建設社会工学科

第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在(1)・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在(2)

動詞の現在(3)・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他:改訂・ドイツ文法の森(CD付き)(第三書房)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

建設社会工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {1} テーマ：あいさつ（1）／人と知り合う／紹介（名前・出身地・居住地・職業・趣味）
文法：人称代名詞／動詞の現在人称変化（規則動詞，sein）／疑問文の種類と答え方／疑問詞
- {2} テーマ：時刻／あいさつ（2）／時を表す表現（1）／人を誘う／アドレスとケータイ番号を尋ねる／食べ物と飲み物／メール
文法：動詞の現在人称変化（haben，不規則動詞）／ドイツ語の語順（定動詞第2位の原則，疑問文の語順）
- {3} テーマ：道を尋ね方・答え方／位置・方向を表す語／建物など／～してください／持ってる？ 持っていない？
文法：duとSie／命令形／名詞の性／定冠詞と不定冠詞／冠詞と名詞の格変化（1・4格）／否定冠詞（1・4格）／所有冠詞（1・4格）
- {4} テーマ：買い物／値段／プレゼント／気に入った？／家族・親戚
文法：名詞と冠詞の3格／複数形／人称代名詞の格変化／前置詞（1）／否定の語を含む疑問文とその答え方
- {5} テーマ：週末や休暇の予定／天候／一日の行動・日常生活
文法：分離動詞／前置詞と定冠詞の融合形／話法の助動詞／非人称のes／日常生活で使う分離動詞／分離動詞に似た使い方をする表現／形容詞

* 上記の各ユニット {1} ～ {5} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕 飯田／江口：アプファールト スキットで学ぶドイツ語（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {0} 発音 Stufe 1
- {1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
発音 Stufe 2
- {2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位／否定の語nicht
- {3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／名詞の複数形／否定冠詞kein
- {4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞
* 上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕 大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他:改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち

・動詞の現在人称変化

・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方

——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態

・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記の (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川／江代「CD 付き ドイツ文法 15 課」（三修社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

応用化学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方 ●zu 不定詞 ●受動態
- 関係代名詞 ●接続法 など。

基礎ドイツ語AⅠの授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：春日 / 松澤「怖くはないぞドイツ文法」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

応用化学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語AⅡ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語AⅡ」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持っていく。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩 / 江代修 / 金関猛著「ドイツ文法15課」
(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化(1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化(2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

総合システム工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語AⅡ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語AⅡ」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語AⅠ」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方 ●zu 不定詞 ●受動態
- 関係代名詞 ●接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：成田節「練習で覚える ドイツ語初級文法」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

機械知能工学科・建設社会工学科

第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につなげる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他：改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

建設社会工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {6} テーマ：過去のできごと（1）／時を表す表現（2）
文法：過去分詞／現在完了
- {7} テーマ：過去のできごと（2）／位置の表現／～がある／遅刻／メルヘン
文法：過去基本形／過去時制／前置詞（2）／es gibt…
- {8} テーマ：修理／家事／開店時間・閉店時間／料理／比較の表現
文法：受動文／再帰代名詞と再帰動詞／比較級・最上級
- {9} テーマ：ふたつの文をひとつにする／病気／色
文法：zu不定詞句／従属の接続詞と副文
- {10} テーマ：非現実の仮定
文法：接続法2式（非現実語法）
- *上記の各ユニット {6} ～ {10} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕飯田／江口：アプファールト スキットで学ぶドイツ語（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
- {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
- {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
- {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
- {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞
- *上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他:改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち

・動詞の現在人称変化

・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方

——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態

・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川／江代「CD 付き ドイツ文法 15 課」（三修社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

応用化学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- 関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2),(3)の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：春日／松澤「怖くはないぞドイツ文法」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

応用化学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたと、き、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語AⅠ」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語 A I」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化(1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化(2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

総合システム工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語 A I」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科

第2年次 前期 木曜3限 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 —C D 付—」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能・建設社会 第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 導入 アルファベット・発音練習

第2回 Lektion 1 動詞の人称変化

第3回 Lektion 2 //

第4回 Lektion 3 語順

第5回 Lektion 3 副文・接続詞

第6回 Lektion 4 前置詞

第7回 Lektion 5 //

第8回 Lektion 5 不規則動詞

第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化

第10回 Lektion 6 //

第11回 Lektion 7 形容詞の格変化

第12回 Lektion 7 //

第13回 Lektion 8 再帰代名詞

第14回 Lektion 9 分離動詞

第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『身につくドイツ文法 Vers.2』
(Deutsche Grammatik)

【著者名】前田良三 他 著

【出版社】郁文堂

【価格】2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科

第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 Lektion 10 語法の助動詞

第2回 Lektion 10 //

第3回 Lektion 11 過去形

第4回 Lektion 11 現在完了形

第5回 Lektion 11 //

第6回 Lektion 12 受動態

第7回 Lektion 13 比較

第8回 Lektion 13 //

第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト

第10回 Lektion 14 // まとめ小テスト

第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト

第12回 Lektion 15 // まとめ小テスト

第13回 まとめ演習 まとめ小テスト

第14回 まとめ演習 まとめ小テスト

第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『身につくドイツ語 Vers.2』(Deutsche Grammatik)

【著者名】前田良三 他 著

【出版社】郁文堂

【価格】2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

建設社会工学科 第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

おはようございます

タナカマコトと申します

何をしていますの？

その帽子はいくらですか？

コーヒーが一杯欲しい

こちらザビーネです

何を注文する？

市庁舎へはどう行ったらいいのですか？

歩いてホテルまで行くことができますか？

その列車は何時に発車しますか？

音楽に興味があります

とてもよかった！

おいしかった！

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション（新訂版）（朝日出版社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能+建設社会の前半の希望者

第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書 参考書

教科書：須澤通他著「体験するドイツ語 Machen wir weiter」
（郁文堂）

参考書：授業中に適宜配布

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 integriert (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置づけ

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単に必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。平易な文章を辞書を使いながら正確に読める。

4. 授業計画

教科書はCD付きで12課からなっており、会話練習が主体となっている。教科書は大事な部分を選択して使う。さらに、読解力を補うためプリントを用意する。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法・基準

期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：佐藤修子他：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他:はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 Lektion 10 語法の助動詞

第2回 Lektion 10 ”

第3回 Lektion 11 過去形

第4回 Lektion 11 現在完了形

第5回 Lektion 11 ”

第6回 Lektion 12 受動態

第7回 Lektion 13 比較

第8回 Lektion 13 ”

第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト

第10回 Lektion 14 ” まとめ小テスト

第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト

第12回 Lektion 15 ” まとめ小テスト

第13回 まとめ演習 まとめ小テスト

第14回 まとめ演習 まとめ小テスト

第15回 （試験）

5. 評価方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『ドイツ文法 型から型へ』

(Von der Form zum Text)

【著者名】荻野蔵平 他 著

【出版社】朝日出版社

【価格】2300円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著

同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子の希望者 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書 参考書

教科書：須澤通他著「体験するドイツ語 Machen wir weiter」
(郁文堂)

参考書：授業中に適宜配布

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置づけ

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツ語使えるドイツ語表現（三訂版）
(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科・マテリアル工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 //
- 第3回 Lektion 11 過去形
- 第4回 Lektion 11 現在完了形
- 第5回 Lektion 11 //
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 //
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 14 // まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 // まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験 (40%) および小テスト (60%) で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『ドイツ文法 型から型へ』
(Von der Form zum Text)
- 【著者名】荻野蔵平 他 著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価 格】2300円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同書社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

マテリアル工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単で必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。平易な文章を辞書を使いながら正確に読める。

4. 授業計画

教科書はCD付きで12課からなっており、会話練習が主体となっている。教科書は大事な部分を選択して使う。さらに、読解力を補うためプリントを用意する。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法・基準

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

- 教科書：佐藤修子他：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」(三修社)
- 独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科、マテリアル工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 integriert（三修社）
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

マテリアル工学科 第2年次 後期 木曜2限 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置づけ

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方
- zu 不定詞
- 受動態
- 関係代名詞
- 接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツ ころの旅」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

総合システム工学科

第2年次 後期 木曜3限 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

・授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

・授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

・授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツってこんな国！[CD付]ロマンチックドイツから福祉・共生・不作為まで」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

選択ドイツ語 A Elective German A

全学科 第1年次 後期 火曜4限 選択 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

・授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

・授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

・授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

生活のさまざまな場面に応じたビデオ教材を用い、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ビデオを参考にしながらドイツ語の文章に慣れ、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。

5. 評価方法・基準

毎回の課題作成により評価し、60%以上を合格とする。授業への参加度が評価のプラスポイントとなる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

学生諸君の積極的な授業参加を期待する。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間

(ビデオ教材 恋するベルリン) DVD つき」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後期 選択 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的文法知識を踏まえて、一定のテーマを持った比較的簡単なドイツ語文を読む訓練をする。辞書を使いながら一貫した文脈のあるドイツ語文を読む技術を身につけるのがこの授業の目標である。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 1
- 第2回 Lektion 2
- 第3回 Lektion 3 名詞の性について
- 第4回 Lektion 4
- 第5回 Lektion 5 再帰代名詞
- 第6回 Lektion 6
- 第7回 Lektion 7 分離動詞
- 第8回 Lektion 7 動詞の過去形・過去分詞形
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12 関係詞・受動態
- 第14回 Lektion 12 接続法
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『オクティ ドイツへ行く』
(OKTI GEHT NACH DEUTSCHLAND)
- 【著者名】マリオン ゼッテコルン、他著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価 格】2400円

8. オフィスアワー等

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第2年次 前期 選択 1単位
担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解し発展させる。

●授業の位置付け

基礎ドイツ語Aで修得したドイツ語の基礎を発展させ、次の段階のドイツ語へつながる学力を養成する。

2. キーワード

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に習熟する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う(第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

- おはようございます
- タナカマコトと申します
- 何をしているの?
- その帽子はいくらですか?
- コーヒーが一杯欲しい
- こちらザビーネです
- 何を注文する?
- 市庁舎へはどう行ったらいいのですか?
- 歩いてホテルまで行くことができますか?
- その列車は何時に発車しますか?
- 音楽に興味があります
- とてもよかった!
- おいしかった!

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション(新訂版)(朝日出版社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

選択ドイツ語A Elective German A

全学 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

・授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

・授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

・授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語1A（新訂版）」朝日出版社

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

選択ドイツ語A Elective German A

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

・授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

・授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

・授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語1A（新訂版）」朝日出版社

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

機械知能・建設社会 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)声調、単母音・複母音
- 第3回 発音(2)鼻母音、子音
- 第4回 発音(3)子音
- 第5回 発音(4)綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2／3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

電気電子・総合システム 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)声調、単母音・複母音
- 第3回 発音(2)鼻母音、子音
- 第4回 発音(3)子音
- 第5回 発音(4)綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2／3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

応用化学科、マテリアル工学科 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

機械知能・建設社会 1 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 9 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 10 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 11 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 12 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 第 13 課
- 第 11 回 ポイント
- 第 12 回 復習
- 第 13 回 第 14 課
- 第 14 回 復習
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

電気電子・総合システム 1 年次 後期 選択必修 1 単位
担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

第1回 復習
第2回 第9課
第3回 復習
第4回 第10課
第5回 復習
第6回 第11課
第7回 復習
第8回 第12課
第9回 復習
第10回 第13課
第11回 ポイント
第12回 復習
第13回 第14課
第14回 復習
第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2／3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

応用化学科、マテリアル工学科 1 年次 後期 選択必修 1 単位
担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 把 構文
3. テキスト第十二課 禁止表現
4. テキスト第十三課 的の表現
5. テキスト第十四課 経験文
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 値段の表現①
8. テキスト第十五課 値段の表現②
9. テキスト第十六課 存現文①
10. テキスト第十六課 存現文②
11. テキスト第十七課 受身文①
12. テキスト第十七課 受身文②
13. テキスト第十八課 使役文
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2／3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

機械知能・建設社会 2 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 12 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 13 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 14 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 15 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 中間試験
- 第 11 回 プリント
- 第 12 回 プリント
- 第 13 回 プリント
- 第 14 回 プリント
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：1 冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

電気電子・総合システム 2 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 1 2 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 1 3 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 1 4 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 1 5 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 中間試験
- 第 11 回 プリント
- 第 12 回 プリント
- 第 13 回 プリント
- 第 14 回 プリント
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：1 冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

応用化学・マテリアル 2 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

第 1 回 (全ての授業計画については、第 1 回の授業時に告知する)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

テキストは、NHK の中国語会話テキストを使用するので、毎月買い忘れの無いように。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：NHK テレビ テレビで中国語 NHK 出版

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語 A Chinese A

2 年次 前期 選択 1 単位

担当教員 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

発音を正確にマスターする

基礎的な文法をマスターする

基本的な会話ができるようにする

中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習

2. 第 1 課 疑問文の様々なタイプ

3. 第 2 課 比較の表現

4. 第 3 課 時間量・主述述語文

5. 第 4 課 「了」の併用

6. 第 5 課 様態補語

7. 第 6 課 「一点」と「有点」

8. 第 7 課 「不」と「没」

9. 第 8 課 「会」の使い方・「是～的」①

10. 第 9 課 前置詞 (介詞) ①

11. 第 10 課 疑問詞「多」

12. 第 11 課 「能」の使い方

13. 第 12 課 「可以」の使い方

14. 第 13 課 「会」の使い方②・「能」の使い方②

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意点、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『ドリル付 着実にまなぶ中国語 基礎固め編』(讃井 唯允著 朝日出版社)

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

選択中国語 B I Elektive Chinese B I

全学科 2 年次 前期 選択 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

外国語としての中国語を習得する。文字表現として漢字を使うが、源と支流では大差あり。差異をみつけることで学習を進める。発音は、日本語の音読みと全く異なるのでゼロからの出発。中国語の流れるような音に慣れれば、練習を重ねるだけで必ず上達する。

2. キーワード

継続は力なり。

3. 到達目標

正しい声調・標準語の発音

4. 授業計画

1. レベルテスト
2. 発音の基礎のチェック
3. 単語力のチェック
4. テキスト第一章 リスニング練習
5. テキスト第一章 文法問題①
6. テキスト第一章 文法問題②
7. テキスト第二章 声調
8. テキスト第二章 ピンイン
9. テキスト第二章 文法問題①
10. テキスト第二章 文法問題②
11. テキスト第二章 構文
12. テキスト第二章 作文
13. 模擬試験①
14. 模擬試験②
15. 定期考査

5. 評価方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須

7. 教科書

「中検 4 級練習長」（光生館）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

選択中国語 B II Elektive Chinese B II

全学科 2 年次 後期 選択 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語初級を履修した学生を対象に中検 4 級合格圏へと実力をつけていく。発音・文法・ヒアリングの模擬問題を解きながら基礎力を確認する。

2. キーワード

継続は力なり

3. 到達目標

基礎力の完成

4. 授業計画

- 1 ～ 13 問題集各課
14. 模擬試験
15. 定期考査

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中検 4 級問題集」（光生館）

8. オフィスアワー等

E-mail : xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

選択中国語 B II Chinese B II

2 年次 後期 選択 1 単位

担当教員 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、聴き取りの練習を中心に、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

音を正確にマスターする

基礎的な文法をマスターする

簡単な中国語を聴き取れるようになる

中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス

2. 第1課 あいさつ 1

3. 第2課 あいさつ 2

4. 第3課 教室用語

5. 第4課 数字

6. 第5課 数字と量詞

7. 第6課 金額と買い物

8. 第7課 両替

9. 第8課 時間

10. 第9課 数字関連まとめ

11. 第10課 場所と位置

12. 第11課 道をたずねる 1

13. 第12課 道をたずねる 2

14. 第13課 道をたずねる 3

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意点、授業時間外における学習等

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語 リスニング道場』（朝日出版社 遠藤雅裕・陳淑梅・柴森著）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

ロシア語AⅠ Russian AⅠ

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
 - 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
 - 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
 - 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
 - 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
 - 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
 - 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
(名詞の単数と複数)
 - 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
 - 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
(動詞の人称変化形)
 - 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
 - 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
 - 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
 - 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 - 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 前学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

ロシア語AⅡ Russian AⅡ

全学 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

前学期末試験

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
 - 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
 - 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
 - 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
 - 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
 - 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
 - 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
 - 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
 - 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
 - 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
 - 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
 - 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
 - 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 - 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 - 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 後学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

選択韓国（朝鮮）語 A I Elective Korean A I

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

1. 講義概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。

この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、やる気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語」中国書店

（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

8. オフィスアワー等

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

選択韓国（朝鮮）語 A II Elective Korean A II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

1. 講義概要

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー等

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp